



白河二中だより

NO. 38

2025. 1. 24
白河市立白河第二中学校
発行責任者 小野 聡

普段の学習から

毎日、元気に登校しているか、また、各クラスの学習の様子が見たくて各教室へ足を運びます。

8時15分からの朝の読書の時間は、校内から物音一つしない静寂な時間が訪れます。

1校時からの授業では、雑巾やゴミが落ちていないことのない、きれいな落ち着いた環境の中で学習が進められ、身を乗り出すように教師の話の聞いたり、友達の考えと自分の考えを比べながら聞いたりする様子もたくさん見られます。

本校の目指す授業スタイルの一つは、県教育委員会が求めているように、教師が話し過ぎず、子ども達の考えを引き出し、その考えと考えをつないでいく中で、最適解やより良い言葉を見い出していくものです。そのような場面が見られたときは、先生方と共有するために、次のようにプリントにして伝えてきました。

【授業 その1】

ある問いに対し、3名の子が挙手をしました。一人の男の子が発した言葉について、多くの子が「？」の中、隣の女の子が、「〇〇ということでしょう。」と話をつなげた場面は、子ども達の成長を感じ、非常に興味深い場面でした。さらに、男子2名も自分の思いを伝えました。小学校時代にも学習訓練がなされていますが、「〇〇君の言っていることを短くいうと『〇〇』です。」などと、前の人の言葉につなげて発言する姿を見ることができました。このように、発言をつなげることを我々が意識すると、どんどんできるようになりますね。

【授業 その2】

私は、「白河二中」の生徒ですから、自分の考えを伝える姿を当たり前、だと思っていますが、実際には簡単なことではありません。学年の、そして、各学級の学習訓練がなされ、学級の雰囲気が良いからこそ、子ども達は安心して話すのです。また、白河二中の学力の高さは、本校の「先生方の授業」で育てているからだと思います。

○発表させた場面では、「〇〇さんが言ったこと、分かる？」「納得した？」「黒板にまとめたいから、もう一度話して」とクラス全員に、その考え方を言語化させ、理解を深める工夫が見られました。

○発表の場面で、時には、「ちょっと待って」と、発表の途中で止めて、他の子に発表させる工夫も見られました。子ども達の集中力も高まりますし、考えを共有することにもつながりますね。



クラス全体で一つのことに集中して取り組む良さ、補い合いながら答えにたどり着く中でクラスの温かさを感じられますし、最適解にたどり着いたときには、大きな達成感がクラスに溢れます。オンラインでの学習や個別学習では、残念ながら味わうことのできないものであり、学校の良さ、存在意義は、仲間と授業を作り上げていくところにもあるのだと思っています。

これからも、子ども達に学校の良さ、授業の良さを感じてもらえるような取組を展開できるよう、さらに、研修を進めていきたいと思っています。